天然自然の摂理～元の理～

2020.12.27 ver. -作成途中- ©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け楽しませ、遊び心の中に喜び勇む道,「陽気遊山」にある。自分の身体,又,この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

どんな道も、案じ心は持たぬよう。
どんな時も、この身、全てを借りていることを忘れずに。
どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

※「理」≒事実,要因

十柱の働きには、「陰の働き=神」主体(陽3:陰7)のものと「陽の働き=人間」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

物事の主軸,起点となり,先の楽しみを見定める。ほこりや汚れを洗い流し澄ませる。冷静で,広大な海。目の前ではなく,遠くの景色(目的地)を見るから落ち着く。気長にやさしく。見えない陰で尽くす楽しみ。"目は心の窓" 眼は心根の現れ。

神の精神世界。
見えない世界。
無意識領域。
光,希望を感知する。
大きな志を持ち
場所,目的を定める。
本心。魂。
"手引き"として身上,事情を現す。

月 天 父

陰の性質

左親指

物事の起点となり、目的を持ち
希望に向かって陰で尽くす心

心定めが全ての起点。
お蔭様の理。
朝起き 陰徳の心。
アルカリ性

①くにとこたち

左の役割 陽3：陰7

体内：眼, 心根, 睡眠, 感覚神経
副交感神経, 涙, 潤い,体の70%水分
世界：水,水素, 雨, 根, 夜, N極
マイナス電子,地球の70%水分
宇宙の70%暗黒エネルギー

甘味

水のように冷静になって思い切り、
物事が新たな楽しみへ転じ変わる。

くにとこたち不足時：
高血圧、不安症
ストレス過多、高熱、過緊張、
不眠症、眼の身上 etc.

どこまでも、ひくい、やさしい、
すなおな心、真実の心で。

天の理と心の理を合わせよう。

『この道は言うて聞かす道やない。行うて見せる道や』
自ら勇んで通り、その姿を周りや社会へ映していく時、世界が変わってくる。逞しい往還道へと繋がっていく。
また、見聞き,経験する事象,現象が、なぜ,どういう理で現れたのか、"自分は"どういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることが大事になってくる。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

『自分の心が澄んだら、誰の顔みても
よい顔に見えるようになるで』

死ぬというのは、着れなくなった
衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

自分をまとう欲(泥)を捨て
いんねん, 運命を切り替える。

男

陰での働き

陰で周りを引き立て支え、
大事な所で俊敏につっぱる心

⑥月よみ

陽3：陰7

体内：骨,首,足腰,男一の道具
世界：つっぱり支える働き
立てる働き, 柱, 茎, 岩石, 地殻
遠心力, 膨張力, 反発力
外へ移動, 凸型

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつっぱって支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。
頭低く、影で下の方から支える柱の働き。
ここぞという所で俊敏に硬化する働き。
物事が治まる理。

展開

仕切る働き。瞼を閉じて冷静に
思い切り、切を付けて進み出す心

⑩たいしよく天

陽3：陰7 陰での働き

体内：出産時に親子の胎縁（臍の緒）を切り、死ぬ時に息を引き取る働き。散髪、爪切り
世界：切ること一切
細胞分裂、食物の収穫

過剰（かしこね 不足）：
物事が処理しきれず、その状況を断ち切る状態。
瞼が勝手に下がってくる状態。

不足（かしこね 過剰）：
物事への執着が強くなり、先案じや保身の考えが先行して、先へ進めない状態。不安や心配などで、瞼を閉じ切れない状態。割り切れず思い切れず、踏み切れない、けじめがない。切れ味が悪い、保守的

成長

陰での働き

時旬を見定め、陰の働きや隠れた
長所を根気よく引き出す実りの心

⑨をふとのべ

陽3：陰7

体内：出産時に子を引き出す働き
身長,爪,毛髪の成長、思い出す,閃き
世界：引き出し一切, 潜在的なものを引き出す働き, 教育
動植物の成長

物事の道理に沿って、時旬に引き出し、成長をもたらす状態。

引き出し3割の意識加減

不足：
物事の表面部分が目について、隠れた長所や本質を引き出せない状態。また道理に反し、引き出し方に無理がある状態。

循環

陽での働き

物事の道理に沿って、柔軟に循環する状態。

腹七分目

必要不要を嗅ぎ分け、味わい咀嚼して
迎え入れ、残留物は流す循環・順応の心

⑦くもよみ

陽7：陰3

体内：嗅覚, 味覚, 咀嚼, 飲み込み, 消化吸収, 排泄, 代謝, 解毒, 免疫, 循環調節
理解, 記憶, (不要な情報を)忘れる,生活リズム 世界：あらゆる循環(水など),溶解(分解,酵素)→蒸発(吸収,分離)→気体→雲(凝固,老廃物)→降雨,降雪(排泄)

不足：①物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼しきれず、味わえず、消化・吸収できず。大雨洪水状態。物忘れの傾向。
②物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食,拒食or便秘状態。干ばつ状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→①＆②：物事が身に付かず,朝を迎えられない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎えられない、無理な辛抱や我慢

お金やモノの循環。
柔軟に流れに合わせて。
苦(≒雲)のない循環はない。

波動

流れを生み、向きを変える働き。
言って勇ませ、聞いて楽しむ心

⑧かしこね

陽での働き 陽7：陰3

体内：息 ,呼吸、鼻で吸い(加温,加湿清浄) 口で吐く(冷暖房,加湿除湿)
声, 言葉, 耳, 聴覚, 平衡感覚
世界：風,音,空気,振動,波動
潮の満ち引き

聞き上手が話し上手に。耳を傾け、勇み心を八方へ。

過剰（たいしよく天 不足）：
受け手にとって、風がしつこい状態。暴風状態。声や思いが通らない。受ける側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥（声）をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。

耳を傾け平衡に持っていく。心地よい風を吹かせる。

不足（たいしよく天 過剰）：
受け手にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声(耳障り)の状態。陰口, 愚痴, 毒を吐く, 愛想尽かし, 切り口上, 捨て言葉, 誹謗中傷、悪口を聞く

挨拶は風の働き。
自ら吹かそう。
声は肥。相手の状態に合わせて
柔軟にかける言葉は変えよう。

女

物事を柔軟に受け入れ、子ども
心でゆっくり次へ繋げる心

⑤くにさづち

陽7：陰3 陽での働き

体内：皮膚、肉,筋原繊維、手
血管系,リンパ管系、女一の道具
世界：柔軟な繋ぎの働き
花, 縁, 出会い, 引き寄せ
求心力, 万有引力,内を充実
凹型

温かい心が消化・吸収・排泄を
促し、物事の循環を生み出す。

人を助ける処に、自分が助かる。
相手とともに、皆で助かっていく道。

手の働き。繋いでぎゅっと握る。
体裁を気にせず、阿呆になる。
物事の繋がりを生む理。

見聞き,経験する出来事を喜ぶ工夫をし、繋げる心。不平不満は繋がらない。見聞き,経験する中に自らのいんねん、歩むべき道が見える為、喜べる。喜べるから、新しい繋がりが生まれる。

日 地 母

陰の働きを有難く思い、
こみ上げてくる明るいぬくみの心

②をもたり

陽7：陰3

右親指

右の役割

体内：体温、活力、炎症
感情、交換神経、運動神経
世界：火, 太陽, 熱, 光, 電気
マントル, エネルギー, 晴れ
プラス電子, S極, 昼

陽の性質

暖かく心地のいい風、言葉が生まれる。
言葉は命
運命を変える

この世。人間の世界。酸性
変化を楽しむ心。
塩分
辛味

ほこり,いんねんを身上事情に現し"ためし"をする。

意識領域。

をもたり不足時：
冷え性、悪寒、低血圧、
貧血、極寒、低体温etc.

陰の働きを有難いと思えた理。湧き上がってくるぬくみの心。温かい光で周りを明るく照らす,見える働き。物事の原動力となる。我が事を忘れ、人を喜ばせ,助けたいという思い。感謝,情熱が行動へ

人の埃が見える間は、自分にもそれだけの埃がある…

心のほこり(※毎日払い,人にほこりを積まさぬよう)
おしい、ほしい、かわい、よく、こうまん
にくい、うらみ、はらだち、嘘,追従(我が身心を捨てる)

ヒント！

【二つ一つの理 と その均衡】
対になる働きは助け合い、シーソーのように連動して作用する。
①くにとこたち：②をもたり
③いざなぎ：④いざなみ
⑤くにさづち：⑥月よみ
⑦くもよみ：⑨をふとのべ
⑧かしこね：⑩たいしよく天
隣り合う働きも夫々似ており連動している。なのでこの図は3Dで立体視することも可能に思われる。

陽気づくめの心

一日 はじまる
北
立春
十日 十分
北東
春分
朝焼け
※太陽太陽暦
七日 なんにも言うことない
立夏
東
夕焼け
秋分
南西
八日 八方ひろがる
立秋
南
五日 りをふく
二日 たっぷり
夏至
南東
昼
夜
北西
冬至
六日 六だいおさまる
ろっくに治まる
西
立冬
九日 苦がなくなる

夫
③いざなぎ
男,種(元)の働き
まっすぐな堪能の心
三日 みにつく

婦
④いざなみ
女,苗代(環境)の働き
素直に受け入れ育む心
四日 仕合わせ

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。
動植物の成長は、日光によって引き出される。